

板橋区ひとり親家庭等生活実態調査(令和3年度) 結果概要

第1 調査概要

1 調査目的

平成29(2017)年度に実施した「板橋区ひとり親家庭等生活実態調査」に続き、2回目となる調査を実施し、その結果を「いたばし子ども未来応援宣言 2025 実施計画 2025」に反映する。



2 調査概要

	アンケート調査	ヒアリング調査
調査対象	● 児童扶養手当受給者 2,000 件(無作為抽出)	● 児童養護施設、社会福祉協議会、子どもショートステイ
調査期間	● R3.7.7～R3.8.10 (845 件回収、42.3%)	● R3.7.16～R3.8.16 (対面・書面調査)
調査内容	● 保護者の生活・就業・経済状況 ● 子どもの生活・学習状況 ● 制度の認知・利用状況 など	● 子ども・保護者の状況 ● 支援の現状 ● 今後の課題・取組 など

第2 結果概要

1 暮らし向き

暮らし向きと自助・共助・公助→第3・1(1)～(9)



- ・暮らし向きの苦しさは親子の心身・社会関係等に影響。コロナ禍の影響は、暮らし向きの厳しい家庭の方が大きい。
- ・家族関係中心の自助や、相談相手の存在等が不利益を緩和
- ・社会全体で課題を解決する意識が必要

養育費→第3・1(10)



- ・養育費の支給がひとり親家庭の厳しい経済状況を緩和
- ・状況の緩和は、養育費を文書で取り決めている場合に特に顕著
- ・養育費の確保を促進し、ひとり親の家庭生活を安定的に開始できることの重要性

2 ライフステージと社会関係

妊娠・出産期、乳幼児期→第3・2(1)



- ・妊婦面接が区のサービス・情報を知り、支援制度の認知を向上することに寄与
- ・ひとり親家庭の子どもは、保育園等への就園率が高い。幼児・教育保育の質の向上の重要性
- ・情報入手特性に応じた情報提供のあり方

義務教育期→第3・2(2)



- ・家事を手伝う子ども・クラブ活動等に参加する子どもほど社会関係・生活関係が良好
- ・子どもが属する様々な社会のなかで、役割・やりがいを見出す重要性
- ・不登校児童生徒への対応の必要

高校生相当以上→第3・2(3)



- ・進学希望が約7割に達する一方、高等教育の無償化の認知は半分に満たず。
- ・子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されないために、経済的支援をはじめ支援制度の認知を高めることの重要性

社会的孤立に陥りやすい子ども→第3・2(4)、第4

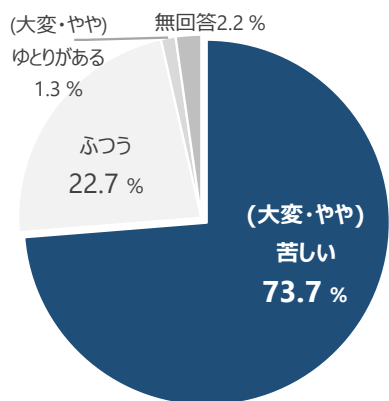


- ・使用言語の違いによって支援制度の認知に差があり、社会的養護下の子どもには自立上の課題あり。
- ・特に配慮を要する子ども家庭に寄り添う社会包摂的取組の重要性

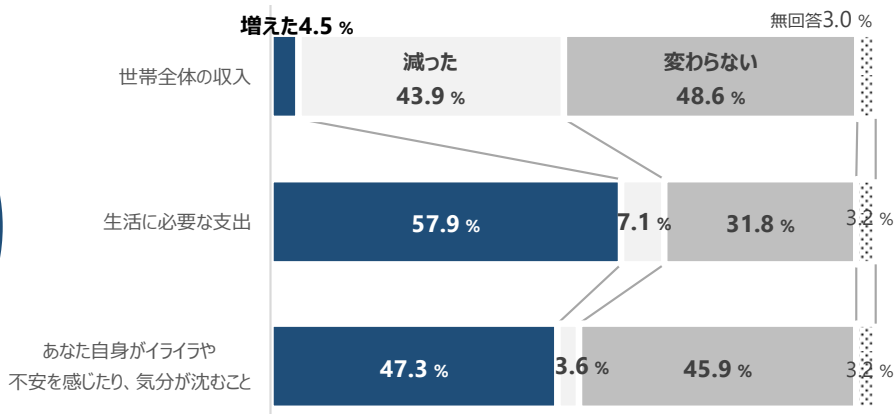
第3 アンケート調査結果概要

1 家庭の暮らし向きとその影響

(1) 暮らし向き(問 16(1))

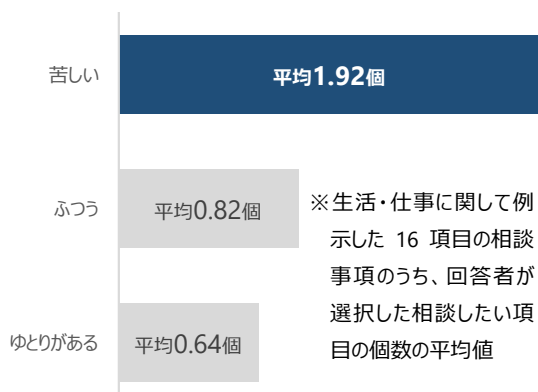


(2) コロナ禍前後の生活の変化(問 31)

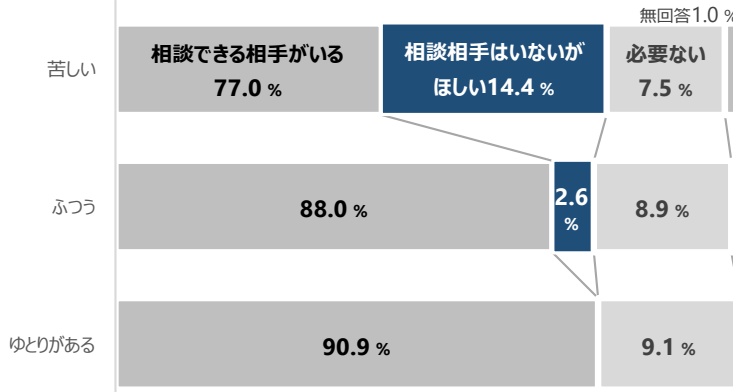


- ・約7割の家庭が、現在の暮らし向きを「苦しい」と回答
- ・コロナ禍前後の生活の変化は、世帯全体の収入は減少する一方、支出は増加。また、保護者(回答者)自身が「イライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」が増えたと回答。

(3) 暮らし向き(問 16(1))×相談したいこと(問 24)

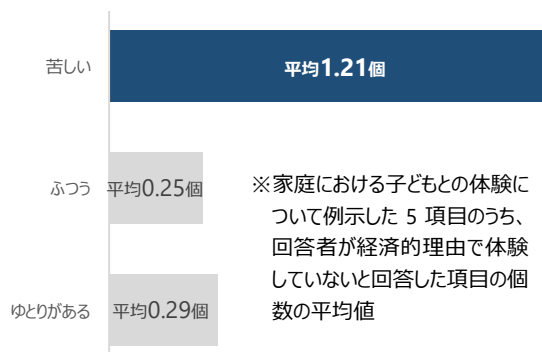


(4) 暮らし向き(問 16(1))×悩みの相談相手(問 26)

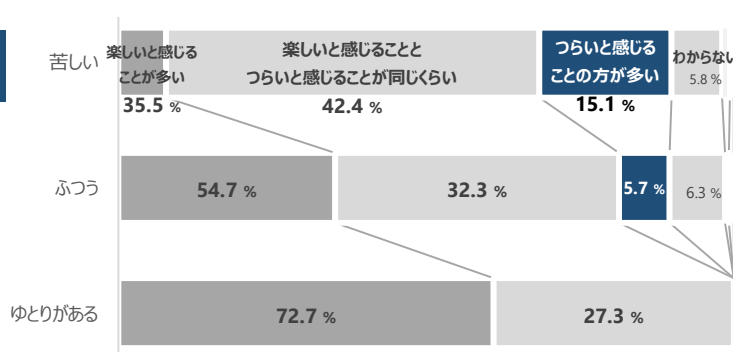


- ・現在の暮らし向きが「苦しい」家庭ほど、生活・仕事に関して相談したいことが多くなる一方、子どもに関する悩みの「相談相手はいないが、ほしい」割合が高くなる。

(5) 暮らし向き(問 16(1))×経済的な理由で体験できなかったことの個数(問 43)

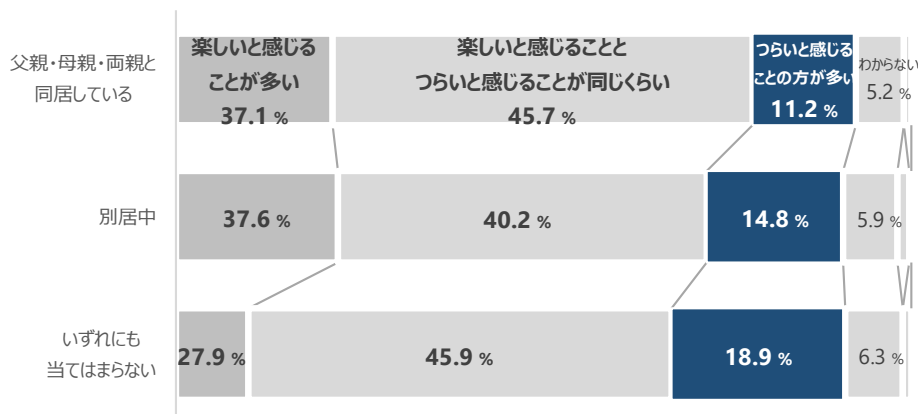


(6) 暮らし向き(問 16(1))×子育ての楽しさ(問 21)



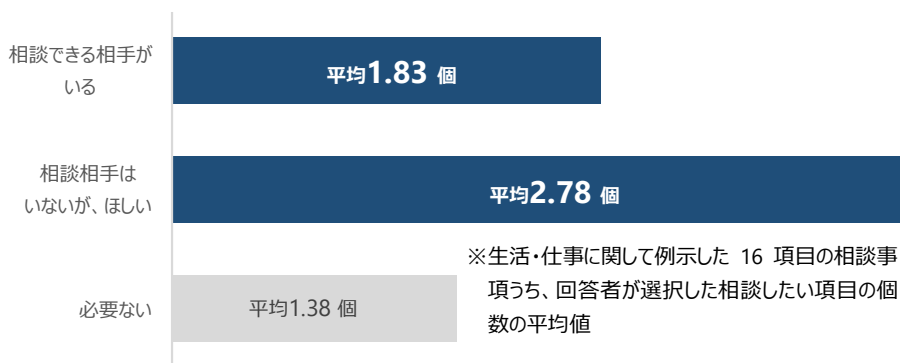
- ・現在の暮らし向きが「苦しい」家庭は、そうでない家庭(暮らし向きが「ゆとりがある」・「ふつう」)と比較して、経済的な理由で子どもと体験できなかったことが多い。
- ・現在の暮らし向きが「苦しい」家庭ほど、「子育てをつらいと感じることが多い」割合が高くなる。

(7) 暮らし向き(問 16(1):苦しい)×祖父母との同居(問 4)×子育ての楽しさ(問 21)



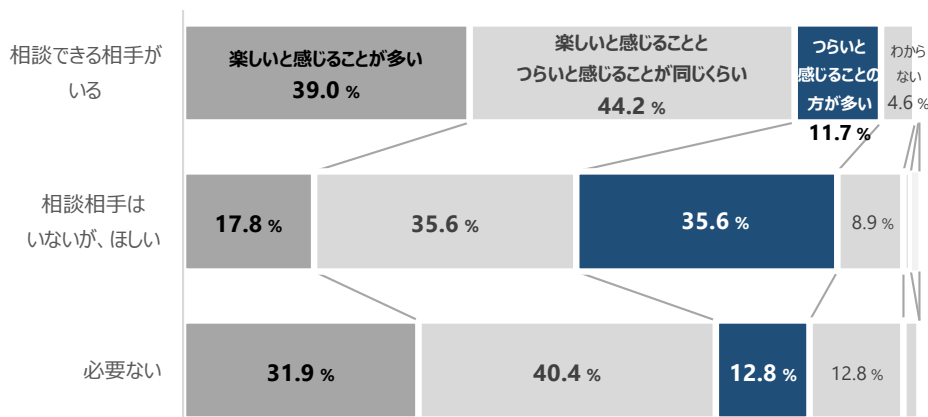
・暮らし向きが苦しくても、(子どもからみた)祖父母と同居している家庭の方が、子育てを「つらいと感じることが多い」割合が低くなっている。

(8) 暮らし向き(問 16(1):苦しい)×悩みの相談相手(問 26)×相談したいこと(問 24)



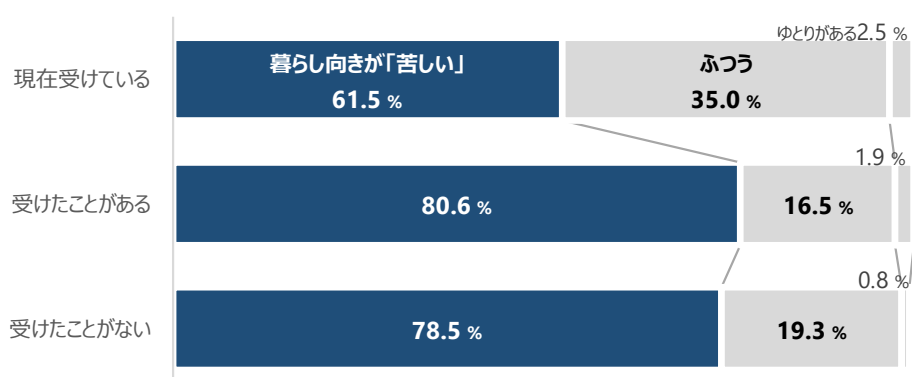
・暮らし向きが苦しくても、「相談できる相手がいる」場合は、「相談相手はいないが、ほしい」家庭と比較して、生活・仕事に関して相談したいことが少なくなっている。

(9) 暮らし向き(問 16(1):苦しい)×悩みの相談相手(問 26)×子育ての楽しさ(問 21)



・暮らし向きが苦しくても、「相談できる相手がいる」場合は、そうでない家庭(「相談相手はいないが、ほしい」・「必要ない」と比較して、子育てを「つらいと感じることが多い」割合が低くなっている。

(10) 養育費の受給状況(問 6(2))×暮らし向き(問 16(1))



・養育費を「現在受けている」家庭の方が、そうでない家庭(「受けたことがある」・「受けたことがない」と比較して、暮らし向きが「苦しい」割合が低くなっている。

2 ライフステージと社会関係

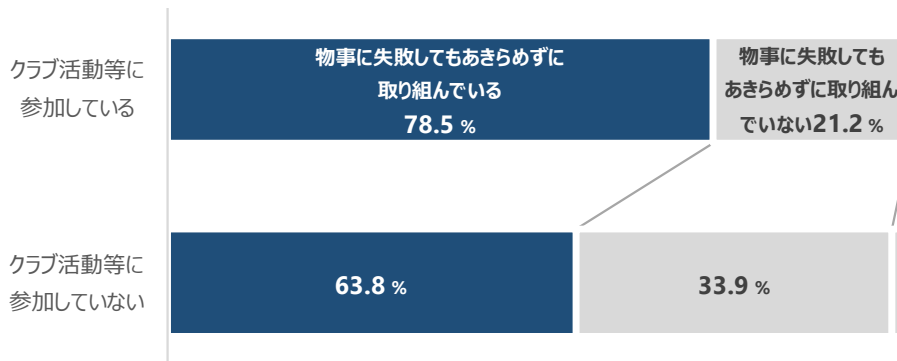
(1) 妊婦面接の利用経験(問 37)×支援制度の認知(問 32)



・妊婦面接(妊婦・出産ナビゲーション事業)を利用したことがある家庭は、未利用家庭と比較して、支援制度の認知が良好である。

※「子育て家庭への支援策」として例示した24事業のうち、「知っている」又は「利用したことがある」と回答した事業の個数の平均値

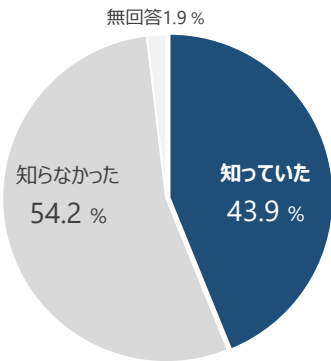
(2) 学校・地域のクラブ活動等への参加(問 46)×子どもの生活習慣(問 53:意欲・根気)



・学校・地域のクラブ活動等に参加している子どもの方が、参加していない場合と比較して、「物事に失敗してもあきらめずに取り組んでいる」割合が高い。

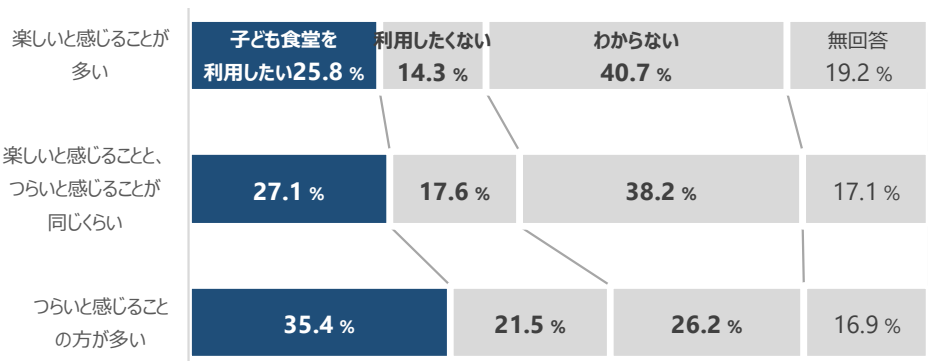
(3) 進学に関する経済的支援

(問 59:高等教育の無償化の認知)



(4) 子育ての楽しさ(問 21)

×子どもの居場所の利用意向(問 51(1)子ども食堂)



・高等教育修学支援新制度(低所得者を対象とした大学等の授業料・入学金の減免や給付型奨学金の支給制度)の創設を「知らなかった」世帯が半数を超えている。

・子育てが「つらいと感じることの方が多」世帯は、「楽しいと感じることが多い」世帯等と比較して、「子ども食堂を利用したい」割合が高くなっている。

第4 ヒアリング調査結果概要

公助的取組(児童養護施設)	共助的取組(社会福祉協議会)
<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢児童の入園が増加 ● 様々な機会保障が図られているが、治療的ケアなど、入園前の影響が入園後も続く。 ● 多くの子どもが、高校卒業とともに卒園。卒園後も支援(アフターケア)を継続、進学者向け支援は充実してきたが、就職者についても環境整備が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども食堂、フードドライブ、食品配付会など「食」を通じた地域の支え合いが進む。 ● 支え合いは、衣食住を充足するだけでなく、人と人とがつながり、コミュニケーションを促進する機能もある。 ● コロナ禍を契機に、食以外の支え合いの動きも広がる。子育てを地域全体で支える環境整備が進むとよい。